令和 7 年度 国立教育政策研究所 教育改革国際シンポジウム報告書
（プロジェクト研究「日本の子供・教師のウェルビーイングを高める学校革新に関する研究」）

「子供・教師のウェルビーイングを高める学校改革 ー教育政策におけるウェルビーイングの捉え方と取組ー」 の概要について

1. プロジェクトの目的と報告書の概要

本報告書は、令和 8 年 3 月 14 日（土）に開催された、国立教育政策研究所 令和 7 年度教育改革国際シンポジウム「子供・教師のウェルビーイングを高める学校改革－教育政策における「ウェルビーイング」の捉え方と取組－」（以下、「シンポジウム」という。）の講演録及び関連資料を取りまとめたものである。

本シンポジウムは、国立教育政策研究所が実施しているプロジェクト研究「日本の子供・教師のウェルビーイングを高める学校革新に関する研究」（令和 7～9 年度）の一環として開催したものである。本シンポジウムの企画及び本報告書の執筆は、諸外国班の班長である植田みどり総括研究官が担当した。

本シンポジウムでは、第 1 部において、イギリス、韓国及びフィンランドからパネリストをお招きし、各国の教育政策におけるウェルビーイングの捉え方及び取組について、それぞれの行政的・専門的立場から、御報告いただいた。

第 2 部のパネルディスカッションでは、日本の状況の報告を踏まえた上で、第 1 に、学校改革におけるウェルビーイングの捉え方、第 2 に、子供・教師のウェルビーイングを高める学校改革の在り方という二つの視点から、イギリス、韓国及びフィンランドに加えて日本のパネリストも交え、今後の子供・教師のウェルビーイングを高める学校改革の在り方を議論した。各国とも、それぞれの社会的・教育的文脈に応じて、ウェルビーイングという概念を教育政策上の重要課題として位置付けるとともに、個人への支援にとどまらず、学校組織の改善、多職種との連携、教育データの活用などを組み合わせた包括的な学校改革を通してウェルビーイングの向上を目指している点を共有できたことは、本シンポジウムの大きな成果であった。

本シンポジウムは、対面及びオンラインによるハイブリッド形式で開催し、会場 79 名、オンライン 206 名、計 285 名の参加を得た。事後アンケートにおいても、多くの貴重な御質問、御意見及び御示唆をいただいた。

本報告書では、講演録及び関連資料を記録として取りまとめ、広く共有することで、今後の研究及び実践における議論の一助となることを期待している。なお、本シンポジウムの成果も踏まえ、諸外国における教育政策上のウェルビーイングの位置付け及び取組を比較分析した報告書を近日中に刊行する予定である。

報告書は、「第 1 章：教育改革国際シンポジウムの企画趣旨」及び「第 2 章：教育改革国

際シンポジウムの講演録」から構成される。なお、本報告書に記載された内容は、各執筆者及び登壇者の責任において取りまとめたものであり、文部科学省又は国立教育政策研究所の公式な見解を示すものではない。本報告書に記載された所属・役職は特記のない限り本シンポジウム開催当時のものである。

登壇者の発表スライドについては、本報告書のファイルサイズを抑えるため、画像の解像度を下げている。本報告書の発表資料を含む全ての資料は下記の国立教育政策研究所シンポジウムウェブページで公開しているので、併せて御参照いただきたい。

https://www.nier.go.jp/06_jigyou/symposium/sympo_r07_03/index.html

【研究期間：令和 7〜9 年度，研究代表者：藤原文雄（教育政策・評価研究部長)】

2. 各章の概要

第 1 章では、本シンポジウムの企画趣旨及びプログラムの概要を紹介した。イギリス、韓国及びフィンランドにおける各国の教育政策におけるウェルビーイングの捉え方と取組の実際を把握することを通して、今後の子供・教師のウェルビーイングを高める学校改革の在り方を議論し、本分野における研究の礎の構築及び研究・実践の発展に資することを目的として、本シンポジウムを企画したことを記述した。

第 2 章では、森田正信研究所長の挨拶と研究代表者である藤原文雄教育政策・評価研究部長による趣旨説明を掲載した後、第 1 部の講演資料、講演記録及び第 2 部のパネルディスカッションの発言記録を収録した。

第 1 部では、まず、報告 1 として教育政策・評価研究部卯月由佳副部長が「教育政策におけるウェルビーイングの捉え方」と題し、先行研究及び政策文書等の文献レビューに基づく考察について報告した。続いて、招待講演 1 としてイギリスの Education Support シネイド・マクブライアティ代表による「教師のウェルビーイング―イギリスの捉え方―」、招待講演 2 として韓国の公州教育大学ホ・ジュ教授による「韓国における教師と児童生徒のウェルビーイング」、招待講演 3 としてフィンランド国家教育委員会ピア・コラ＝トルヴィネン教育参事官による「フィンランドの教育における児童生徒と教師のウェルビーイングの捉え方と取組」と題した講演が行われ、各国の教育政策及び実践について理解を深めた。

第 2 部では、まず、報告 2 として明星大学の神林寿幸准教授が「教員ウェルビーイングにみる日本の学校教育をめぐる課題と今後の展望」と題して日本の現状と課題について報告した。その後、教育政策・評価研究部植田みどり総括研究官によるモデレーションの下、3 名の招待講演者と神林准教授によるパネルディスカッションを行い、①学校改革におけるウェルビーイングの捉え方について、②子供・教師のウェルビーイングを高める学校改革の在り方についてという二つの論点を中心に議論した。本報告書第 2 章には、これらの講演及び討議の記録を収録している。

最後に、本シンポジウムの開催に当たり、御多忙の中、御登壇いただき、貴重な知見と示唆を御提供くださった登壇者の皆様に、深く感謝申し上げる。